



## 南の台頭

——多様な世界における人間開発

### 人間開発報告書 2013 と構成指数について

## 日本

### 人間開発報告書 2013 における人間開発指数 (HDI) とランキングの変動

#### はじめに

人間開発報告書 2013 には、187 の国と地域の人間開発指数 (HDI) とランキングをはじめ、132 か国の不平等調整済み人間開発指数 (IHDI)、148 か国のジェンダー不平等指数、104 か国の多次元貧困指数がまとめられています。各国の HDI とランキングは3月14日午前10時 (メキシコ時間) の人間開発報告書の世界同時発表を受けて報道解禁となります。

使用データと算出方法に変更があったため、今回の指数やランキングを過去の報告書のそれと比較することは適切ではありません。これまでの HDI の推移に関しては、報告書巻末の「統計表 2」(人間開発指数の動向) をご参照ください。「統計表 2」にまとめられた数値は一貫した指標と算出方法、時系列データに基づいており、したがって各国の前進の実情を映し出す HDI とランキングの正確な変動が表されています。ただし数値のわずかな変動は、サンプル上のばらつきによるものとして統計的な有意性をもたない場合があります。解釈には注意を要します。一般的に、どの指数も小数点以下第 3 位の変動は有意でないと判断されます。

それぞれの指数の算出方法については、報告書巻末の「テクニカルノート」1~4 に詳しい説明があります。また、関連資料は人間開発報告書のウェブサイトでご覧・入手できます。

#### 人間開発指数 (HDI)

HDI は、人間開発の 3 つの側面における長期的前進を評価する総合指数です。3 つの側面とは、長寿で健康な生活、知識へのアクセス、一定の生活水準です。人間開発報告書 2011 と同じく、長寿で健康な生活は平均余命によって測られます。知識へのアクセスは、(1) 成人人口の平均就学年数、(2) 入学年齢児童の予測就学年数によって測られます。前者は、25 歳以上の国民がそれまでに受けた教育の平均年数。後者は、現在の各年齢層の就学率が今後も変わらないものとして、これから就学する児童に見込まれる学校教育の総年数です。生活水準は、2005 年の購買力平価 (PPP) ベースのドル価によって 1 人当たり国民総所得 (GNI) が測られます。

国際比較の範囲をできる限り広げるために、HDI は主として国連人口部、ユネスコ (国連教育科学文化機関) 統計研究所 (UIS)、世界銀行のデータに基づいています。冒頭に述べたとおり、当該機関によって構成指標に一連の見直しが行なわれたため、今回の HDI とランキングは過去の人間開発報告書のものと比較できるものではありません。HDI の推移を見るために、今回の報告書には 1980~2012 年の改定値が掲

載されています。

### 日本の HDI とランキング

日本の 2012 年の人間開発指数 (HDI) は 0.912 で HDI 最高位国グループに属し、ランキングは 187 の国と地域中 10 位です。日本の HDI は 1980~2012 年に 0.788 から 0.912 へ伸びました。これは 16%の上昇で、年平均上昇率は約 0.5%です。

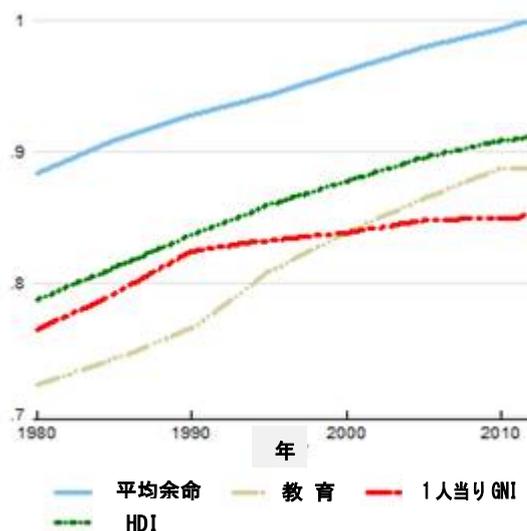
人間開発報告書 2012 から、HDI を出すための使用データと算出方法に変更があったため、過去の報告書の HDI やランキングと単純比較することは誤解を招く恐れもあります。たとえば 2012 年の新しい算出方法を用いると、2011 年の日本の HDI ランキングは 187 か国中 10 位となります (人間開発報告書 2011 では 187 の国と地域中 12 位でした。表 A は、HDI の構成指標における日本の推移をまとめたものです。1980~2012 年の間に日本の出生時平均余命は 7.4 年、平均就学年数は 2.7 年、予測就学年数は 2.1 年、それぞれ伸びています。日本の 1 人当たり GNI は 1980~2012 年に約 82%増加しました。

表 A: 一貫した時系列データ、新たな構成指標と算出方法に基づく日本の HDI の推移

	出生時平均余命	予測就学年数	平均就学年数	1人当たり GNI (2005年 PPP\$)	HDI 値
1980	76.2	13.2	8.9	17,851	0.788
1985	77.8	13.2	9.4	21,360	0.812
1990	79.0	13.3	9.9	26,706	0.837
1995	79.9	14.2	10.4	28,309	0.860
2000	81.2	14.6	10.8	29,313	0.878
2005	82.3	15.0	11.2	31,150	0.896
2010	83.2	15.3	11.6	31,754	0.909
2011	83.4	15.3	11.6	31,766	0.910
2012	83.6	15.3	11.6	32,545	0.912

図 1 は、1980 年以降の日本の HDI に対する各構成指標の寄与度を示しています。

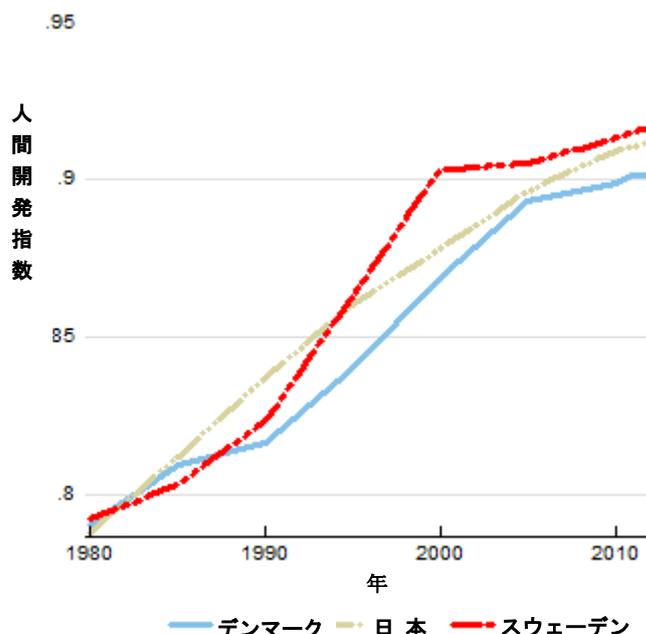
図 1 日本の HDI 構成指標の推移 (1980~2012 年)



## 他の国々との相対比較による推移評価

長期的な推移は、地域と HDI 水準の両面から共通性をもつ他国と相対比較することによって評価ができます。たとえば 1980～2012 年の間に日本、デンマーク、スウェーデンは HDI の上昇に相異なる軌跡を残しています（図 2 参照）。

図 2 日本の HDI の推移（1980～2012 年）



日本の 2012 年の HDI 0.912 は、人間開発最高位国グループの平均値 0.905、経済協力開発機構 (OECD) 加盟国の平均値 0.888 をともに上回っています。OECD 加盟国のうち、2012 年の HDI ランキングと人口規模において日本に近いのは韓国と米国で、それぞれの HDI ランキングは 12 位、3 位となっています（表 B 参照）。

表 B: 2012 年における日本の人間開発指数と主要な国々とグループとの対比

	HDI 値	HDI ランキング	出生時 平均余命	予測就学 年数	平均就学 年数	1人当たり GNI
日本	0.912	10	83.6	15.3	11.6	32,545
韓国	0.909	12	80.7	17.2	11.6	28,231
米国	0.937	3	78.7	16.8	13.3	43,480
OECD	0.888	—	79.7	15.7	11.2	30,765
HDI 最高位国平均	0.905	—	80.1	16.3	11.5	33,391

## 不平等調整済み人間開発指数 (IHDI)

IHDI は、1 国における基本的な人間開発達成度の平均水準を表す指数です。あらゆる平均値がそうであるように、IHDI に関しても、その背後には国内の人間開発の分布における不平等が隠れています。人間開発報告書 2010 から採用している不平等調整済み人間開発指数 (IHDI) は、IHDI の 3 側面における不平等を加味するために、各側面の不平等の水準に従って平均値を「割り引く」ものです。IHDI は人間開発の「潜在能力」の指標、IHDI は人間開発の「現状」の指標と見なすことができます。不平等による潜在的な人間開発の「損失」は、IHDI と IHDI の差分としてパーセンテージで示されます (詳細は報告書巻末の「テクニカルノート 2」を参照)。日本の IHDI は、データが揃っていないために算出されていません。

## ジェンダー不平等指数 (GII)

ジェンダー不平等指数 (GII) は、リプロダクティブ・ヘルス (性と生殖に関する健康)、エンパワーメント、経済活動の 3 側面におけるジェンダーに基づく不平等を表します。リプロダクティブ・ヘルスは妊産婦死亡率と 15-19 歳の女性 1000 人当たりの出生率、エンパワーメントは国会議員の男女比率と中等教育以上の男女履修率、経済活動は男女の労働市場参加率によって測られます。GII は以前のジェンダー関連開発指数とジェンダー・エンパワーメント指数に代わったもので、上記の 3 側面での男女不平等による人間開発の損失を表します (詳細は報告書巻末の「テクニカルノート 3」を参照)。

日本の 2012 年の GII は 0.131 で、ランキングは 148 か国中 21 位でした。日本の女性国会議員の割合は 13.4%、成年女性の中等教育以上の履修率は 80%、同男性が 82.3%となっています。出生 10 万につき 5 人の女性が妊娠・出産に伴う原因で死亡しており、15-19 歳の女性 1000 人当たりの出生数は 6 人となっています。女性の労働市場参加率は 49.4%で、男性は 71.7%です。

ちなみに、韓国、米国の GII ランキングは 27 位、42 位です。

図 C: 2012 年における日本のジェンダー不平等指数と主要な国々とグループとの対比

	ジェンダー 不平等指数 (GII) 値	ジェンダー 不平等指数 (GII) ランキング	妊産婦 死亡数	15-19 歳の 女性 1000 人 当たりの 出生数	国会での 女性の 議席数 (%)	中等教育以上 を受けた人口 (%)		就労率 (%)	
						女性	男性	女性	男性
日本	0.131	21	5	6	13.4	80.0	82.3	49.4	71.7
韓国	0.153	27	16	5.8	15.7	79.4	91.7	49.2	71.4
米国	0.256	42	21	27.4	17	94.7	94.3	57.5	70.1
OECD	0.225	—	17	24.7	25	80.6	84.1	50.9	69.5
HDI 最高位国 平均	0.193	—	15	18.7	25	84.7	87.1	52.7	68.7

## 多次元貧困指数 (MPI)

2010 年版人間開発報告書から採用した多次元貧困指数 (MPI) は、個別世帯の教育、保健、生活水準

における複数の欠乏を捉えるものです。教育と保健はどちらも 2 つの指標、生活水準は 6 つの指標に基づき、同一の世帯調査から得られた指標を MPI の算出に用います。それぞれの指標に重み付けを加えたうえで、各世帯の欠乏度を計算します。33.3%の欠乏、つまり重み付けされた指標全体の 3 分の 1 にあたるラインが貧困と非貧困を分ける基準となり、欠乏度が 33.3%以上に及んでいる世帯および世帯に含まれる個人が多次元貧困と見なされます。欠乏度が 20%以上 33.3%未満の世帯は、多次元貧困となるリスクをかかえた「脆弱」な世帯です。日本の MPI は、データが揃っていないために算出されていません。